

平成 28 年度国立公園満喫プロジェクト 第 3 回霧島錦江湾地域協議会 議事概要

日時：平成 28 年 12 月 21 日（水） 14：00～15：30

場所：鹿児島市 市民福祉プラザ 2 階会議室

出席者：

（敬称略）

九州森林管理局 保全課長 迫口 親

九州運輸局 観光部長 伊地知 英己

九州地方整備局 企画部 事業調整官 古木 慎一

九州地方環境事務所 所長 北沢 克巳

宮崎県 環境森林部長 大坪 篤史

鹿児島県 鹿児島県環境林務部長 東條 広光

都城市 副市長 岩崎 透

小林市 観光政策参与 矢野 雄二郎

えびの市 観光商工課長 吉留 伸也

高原町 副町長 横山 安博

鹿児島市 副市長 松木園 富雄

指宿市 観光課長 今柳田 浩一

垂水市 市長 尾脇 雅弥

霧島市 市長 前田 終止

始良市 副市長 久保 力

湧水町 町長 米満 重満

南大隅町 商工観光課長 竹野 洋一

（一社）九州観光推進機構 海外誘致推進部長 坂本 久敏

（公財）みやざき観光コンベンション協会 専務理事 富高 敏明

（公社）鹿児島県観光連盟 専務理事 白橋 大信

## <議事概要>

### ■開会

#### ○鹿児島県環境林務部長挨拶

慌ただしいスケジュールではあったが、皆様のご協力により今日を迎えることができた。ステップアッププログラムはこれからの取り組みの方向性を示している。既に具体的な取り組みが始まっているものもあれば、これから検討に着手していかなければならないものもある。構成員並びに関係者が協力して取り組むことで霧島錦江湾国立公園はより魅力的なものになるはずである。本プロジェクトを通して、より多くの外国人を南九州へ呼び込み、地域の活性化へとつなげていきたい。

#### ○宮崎県環境森林部長挨拶

鹿児島県と宮崎県でこのような計画を作るのは初めてでないだろうか。全体として最適な計画となるように努めることが大事である。観光客、特に外国人にとっては宮崎も鹿児島も区別して来ているわけでないので、両県が団結して大きな計画を作りたい。この種の計画は最初から完璧なものを作り上げることは難しいため、今後も継続的に見直しを重ねて改善していきたい。

#### ○鹿児島市副市長挨拶

鹿児島市では、桜島錦江湾ジオパークにおいてジオパーク活動に取り組んできた。霧島市、始良市、垂水市、鹿児島市の4市では、錦江湾奥会議の開催など、かねてから行政区域を超え、地域活性化に向けて世界に誇れる自然や歴史文化といった多彩な地域資源を活かした取り組みを連携しながら行ってきた。ステップアッププログラムで掲げた事業を着実に実施することで、霧島錦江湾国立公園の魅力をさらに創出し、インバウンドの受け入れによる交流人口の増加や地域活性化につなげたい。また、阿蘇くじゅうとも一緒に九州全体を盛り上げたい。

### ■議事

議事（1）ステップアッププログラム2020（案）の策定過程について・意見交換

#### （霧島市）

- ・霧島錦江湾地域のステップアッププログラムの進捗状況は他の地域と比べてどうか。

#### （事務局）

- ・東北の十和田八幡平がステップアッププログラムを既に公表している。
- ・他の地域については、年内を目処に調整しているところであり、霧島錦江湾地域も他と同

じような進捗状況であると感じている。

(霧島市)

・絵にかいた餅とならないように、構想案をまとめた我々の責任をどう理解すべきか、また予算はいくら用意されているのか教えていただきたい。

(事務局)

・環境省では、平成 28 年度の補正で 100 億、平成 29 年度の要望で 100 億。他の省庁の予算については、国立公園満喫プロジェクトとしての枠組みではないが、国立公園関係で活用できる予算について、一覧として本省で整理しているところである。

(霧島市)

・我々は要求するものだけ要求して、あとは何もしないということでもいいのか。  
・ステップアッププログラムに文章として落とし込んだ責任は、その先の実行段階にあるのではないか。  
・中身を実行していく流れ、それを裏付けする予算をしっかりとやりきっていかなければならないと思っている。今後もきちんと連携していくことを要望しておきたい。

(鹿児島県観光連盟)

・実行段階での事務局体制、各機関の役割はどうなるのか。特に、県境を越えた事業の調整作業（予算やスケジュールなど）は非常に大変な作業になるだろう。  
・多くの事業を進めるにあたり、短期・中期・長期に分けて事業整理をする必要がある。個人的には、いまずぐ始められる事業で効果が出るようなものがあれば、まずはやってみるといいのいいと考える。成功例をいくつか積み上げていく。えびの高原であれば、説明看板やベンチや登山道整備など、目に見えて効果のあるものをまずは取り組んでみる。一つの成功事例を作ることで事務局体制が強化されていくのではないか。  
・ステップアッププログラムの中身ついてだが、ツアーデスクの設置については、高千穂河原のビジターセンターの箇所に書かれてあったが、えびの高原においても必要性が高いのではないか。また、コンシェルジュ機能は、旅館やホテル側にも持たせることが大事だと思う。  
・火口湖の活用とあったが、大浪池等も含まれるのか。  
・南大隅町の誤字が見られた。

(事務局)

・本協議会の体制を継続していく予定。ただし、個別の細かい取り組みについては、地域部会や取り組み単位ベースでそれぞれ進め、協議会全体としては、年 1 回程度、各取り組み

の進捗状況やステップアッププログラムの改訂すべき点について話し合っていきたい。

・事業全般の優先順位や成功事例の創出については、まさにその通りだと考えている。実際に取り組みが進められるところについては先行事例的な形で進めていき、他のエリアのモデルになればと考えている。

## 議事（2）ステップアッププログラム 2020（案）について

（霧島市）

・P8 のコンセプト「まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食」についてだが、『南九州』の箇所にとどの地域名を入れてもしっかりきってしまうようなもので果たしてよいのだろうか。

国立公園それぞれに違いがあるのだから、違いを見せつけるコンセプトにするべき。

・日本中の北から南まで神話伝説があるわけではなく、霧島連山にあるからこそ書いた方がいいのではないのかとこれまで提案してきた。神々が宿る。天孫降臨の神話がある。世界中のどのような国にも国の始まりとしての神話があるだろう。海外の人たちの中には、そういう話からなるほどと関心を持って入ってくる人もいるだろう。

（事務局）

・神々の宿るといというのは最初に提案させて頂いたところだが、霧島火山群の前に入れていた時にどこまでかかるかがよくわからないという指摘があった。

・ただし、指摘の通り歴史神話の話をもっと前面にといというのはその通りである。

・事務局の思いとしては、どこに対しても共通するコンセプトというより、それぞれ三地域それぞれに独特の特色があると思っている。この3地域のそれぞれの魅力を滞在して楽しんでもらいたいという思いがある。ただし、歴史神話をもっと国立公園の魅力としてみえるべきといのはその通りだと思う。

・歴史神話は文化に含んでいるつもりであったが、わかりにくいかもしれない。文化のところに歴史・神話といのを追記することでどうか。

（霧島市）

・各地域の特徴が盛り込まれているということを理解した上で発言している。

・無難な表現がどれほど国立公園の特徴を骨抜きにしているかということをもっと考えてみてほしい。

（事務局）

・「多様な火山とその恵み、神話と歴史が息づく霧島錦江湾、桜島火山」というように霧島錦江湾桜島すべてにかかるような形で特徴を打ち出す文章を付け加えるのはどうか。

(霧島市)

・良いと思う。

(鹿児島県)

・三つの地域に共通するのは多様な火山地形と火山めぐみであると思う。霧島はもちろん、錦江湾については桜島、指宿には開聞岳がある。神話についても霧島と開聞岳には共通して関係しており、錦江湾については抜けるものの、国立公園の名称からとって霧島錦江湾としてまとめるという形でどうか。

(霧島市)

・あまりにも概略ばかりをとりだすと全体が骨抜きになるということを指摘しておきたかった。

(鹿児島市)

・火山とか神話は他にもあるのではないかとも思う。3カ所の同じコンセプトを作るのも大変かと思う。事務局が最初に行ったように、自然の後に神話を加えるという案も良いのではないかと考えている。

(地方整備局)

・P7の霧島錦江湾国立公園が有する課題についてだが、「滞在時間が短い」「誘導対策が不十分」などテクニカルな問題が上げられている。アトキンソン氏の著書にもあるが、おおもととなる課題とは、国立公園にくる価値があるかないか、価値をどのように作るかということではないか。その中で、当面の課題として、「現状では滞在時間が短い」とか「誘導対策が不十分だ」という話が出てくる。ここでの記載では、大本となる大きな目標（課題）がない。施策がうまくいかずに立ち返ったときは、大きな目標（課題）が何かをしっかりと確認してから、テクニカルな話に入ることになるだろう。国立公園の価値が何なのか、どのように作るかということは今後もずっと続くおおもととなる課題となるはずだ。そのようなこともきちんと明記していないとじっくり来ない。

(事務局)

・そもそもの国立公園の魅力を体感してもらうための仕組みという点については、各テーマの中には書いてあるが、見出しとしては違うのではないかという意見かと思う。  
・課題の最初の所に、国立公園をまさに満喫してもらうための体制ができていないということを書き加えたい。

(九州観光推進機構)

・九州観光戦略を各県で作っていて、第2次アクションプランが今年策定されている。その中の九州外交促進戦略としてナショナルパークの宣伝を積極的に行うという戦略も組み込んでいる。霧島錦江湾国立公園については宮崎鹿兒島を中心とした誘客の対策になると思うが、阿蘇くじゅうも認定されているため、宮崎鹿兒島の流れだけでなく、福岡から縦に流れる動きももっと活発になるように関係機関と連携して取り組んでいきたいと考えている。

(小林市)

・P12の2)「行ってみようと思ってもらう」ためのプロモーションの一項目目において、協議会単位または部会単位での・・・とあるが、国や観光推進機構と連携して進めていくのかどうかという点が不明確である。

・プロモーションは協議会・部会で取り組み、国は資金面で支援しますということなのか、もしくは国が主導するのかなどきちんと明記しておくことは非常に大事だと考えている。

・オウンドメディアやサイトの立ち上げをどういうストラクチャーでやるのか。協議会や部会単位でそれぞれまちまちにやってもいけないだろう。

・ここは国や推進機構と連携するといったことをきちんと入れておく必要があるのではないかと思う。それにより、阿蘇くじゅうと霧島錦江湾においては相乗性をもたせてやっていくなどの対策が必要になってくると思う。九州一帯とか捉えるようにアトキンソン氏にも言われたところなので、きちんと入れておいた方がいいのでは。

(事務局)

・国・九州全体の取組が有機的に連携できるような形で書かせていただきたい。

(地方整備局)

・オリンピック・パラリンピックのために来る欧米豪の人達は、成田・羽田・セントレア・関西空港から入ってくるため、ゴールデンルートからどのように引き込むかがプロモーションの肝だと思う。

・先日岐阜の高山の観光の方と話す機会があったが、欧米豪の方々の60%が成田。その次、関空とセントレア。高山はセントレアからでも特急で二時間半かかるころなので、どうやって魅力を出して引き込むのかということが大事になっていた。そのときに、周辺の金沢とかと連携しながらプロモーションを行い、30年経ってようやく来るようになったという話であった。

・霧島錦江湾地域も、高山と同様の対策を何か考えなければならない。確かに東アジアの方はLCCでくるだろう。ただし欧米豪の1日10万~15万円程消費してくれる観光客もどのように引き込むかということ、戦略として考える必要があるのではないか。

(霧島市)

- ・確かに、中長期的な戦略としては欧米豪についても考えなければならない。
- ・ただし、現在の特に九州については、欧米豪は少ない。今度鹿児島国際空港も路線を増やしていく、LCC も増便される。中国からのつながりを深くしていき、アジア全体を引き込んでいく戦略も重要。
- ・両方取り組まなければ、四年後に 20 万人というのは出来そうで出来ないのではと思う
- ・やり方によってはもっと革命的に増やす方法もあるのではないかと思う。そのような研究も進めてほしい。

(事務局)

- ・まず現状の中でどうなのかということについては、より深く掘り下げた上で対策を考えていると考えている。
- ・少なくとも福岡空港経由が大部分を占めているということが既に分かっているので、九州北部地域における主要な港や空港でプロモーションするということは予め組み込んでいく。
- ・また、今後飛躍的にインバウンドをのばしていくための対策としては、今すぐ書き込むことは出来ないが、新たな海外路線も検討するなどの方向性も含めて考えていきたい。

議事 (3) その他

(事務局)

- ・曾於市から地域協議会に参加したいとの申し出があった。曾於市は霧島錦江湾国立公園に属する市町村ではないが、今後連携を深めていきたい環霧島会議の構成員でもあることから、事務局側としては参加していただくことに問題ないと考えている。

(霧島市)

- ・環霧島会議では、10 年にわたり連携してきた。国立公園の地域に含まれているところだけだけでなく、そこまでのアクセスなどの整備も重要。ぜひお願いしたい。
- ⇒承認された。

## ■閉会

○九州地方環境事務所所長挨拶

世界からは九州はひとつの島としてみなされているが、同じ島の中でも場所によって個性がある。その個性を再認識し、表に出して磨いていくことで魅力度があがる。そして、その個性をつなげていく、広げていく努力が必要だと考えている。このプログラムはまだスター

トラインに立ったばかりで、内容の熟度も様々な状況である。本プログラムを進めていくにあたり足りない点も出てくるかと思うが、その都度きちんと改良していき、実際に地元のためになるものを作っていくことが大事だと思っている。協議会を推進母体として進め、協力し合うパートナーとして進めていきたい。